

総評

第10回高校生ポスター発表は30件でした。今年も力のこもったポスターがそろっていました。2023年3月13日に高校生ポスター選考委員会においてポスター賞の選考をおこないました。選考は、①ポスターの見やすさ・わかりやすさ、②研究や実践活動の新規性や独創性、③方法の妥当性、④論理の展開の妥当性の4点についての評価を軸に総合的に行いました。内容的には「研究結果」の発表が多かったのですが、森林学会の高校生ポスター発表は「研究」だけでなく「実践活動」も評価しています。

今回、実践活動に関するポスターのうち、熊本県立矢部高等学校『「林業のちから×ふくしの心」～ものづくりで地域の課題解決！～』が優秀賞を受賞しました。矢部高等学校は昨年の最優秀賞に続いての受賞となりました。木材を使った製品の製作にとどまらず、それを社会実装していく活動を継続して行っている点と、新たな活動を着実に積み重ねている点が評価されました。新しく取り組んだことがポスターの中できちんと分かるように書かれていることもよかったです。

研究については、今年はICTやGPS等の先端測定機器を使った研究が多かったのが印象的でした。機器を使うことで、これまで得ることのできなかった情報を得ることができます。例えば東京都立国分寺高等学校の「カラスバトのGPSを使ったその生態の解明」もその一つでした。カラスバトの生態の解明に寄与する貴重なデータを収集しただけでなく、それをわかりやすく明快にまとめている点も高く評価されました。年間の行動パターンが明らかになることを期待しています。

特別賞を受賞した新潟県立新津高等学校「スギ林下で生息するヒゴスミレ」はわかりやすい実験をおこない、得られた結果もわかりやすく取りまとめられていることが高く評価されました。

東京都立国分寺高等学校「FSC認証商品を推し進めるには」は目的設定、方法論、結論が簡潔明瞭に記載されている点、具体的な活動プランを提案している点が高く評価されました。高校生の視点から丁寧に考えてよく調べている興味深い発表でした。

高校生ポスター研究のよいところとして、生活の中での疑問、学校の山、地域の生態系などの身近な自然や環境に対する興味が出発点で、そこから研究や実践活動に繋がっているところあげられます。身近な疑問から、仮説を立て、数値化し、過去のデータと比べ、新しい気付きを得ていました。多くの高校が、部活やクラブ活動として先輩から後輩に研究を引継ぎ、研究を継続していました。引き継ぐことで、継続したデータを取ることができるのも、高校生の研究ならではの大きな強みと言えます。

今年是最優秀賞2件がどちらも国分寺高校となりました。1件はクラブ活動をベースとした発表、1件は探求型学習から発展した発表だったと伺いました。

発表くださった皆様ありがとうございました。